

令和6年 能登半島地震 鹿児島JRAAT活動報告

社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

中道和美 中畑敏秀 小野里奈

鹿児島大学医歯学総合研究科

河村健太郎

JRATとは

JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会；

JAPAN DISASTER REHABILITATION Assistance Team)

平時から加盟団体が連携し、各地域において地域住民と共に災害に立ち向かう仕組み作りに寄与する。また、発災時に災害リハビリテーション支援チームを発足させ、被災者・要配慮者の生活不活発病や災害関連死等の予防に関する活動を行う。

①生活不活発とそれに伴う災害関連疾患の予防と対策

②生活環境の改善や工夫

③地域や災害支援団体との連携した活動



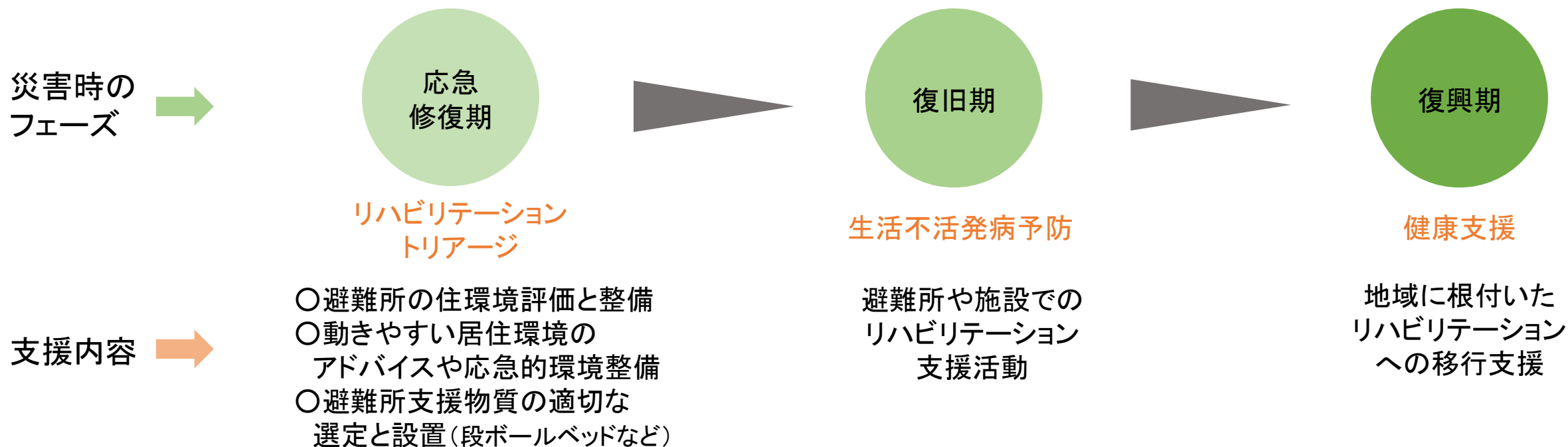
災害リハビリテーションとは

「被災者・要配慮者等の生活不活発病および災害関連死等を防ぐために、リハビリテーション医学・医療の視点から関連専門職が組織的に支援を展開することで、被災者・要配慮者等の早期自立生活の再建、復興を支援する活動の全てをいう」

（2019年4月，JRATで定義）

災害のフェーズと支援内容

目的: 災害に関連した身体機能、生活能力の低下予防



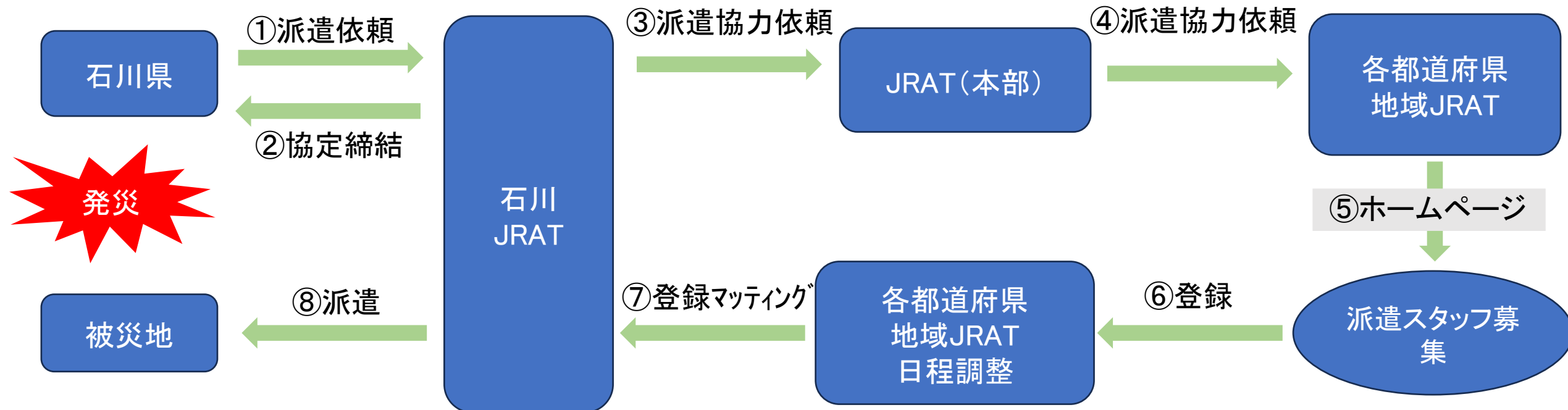
※参入職種 リハビリテーション科医師、理学療法士、
作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケアマネジャー、
義肢装具士、その他医療福祉関連職

能登半島地震の活動実績と派遣の流れ

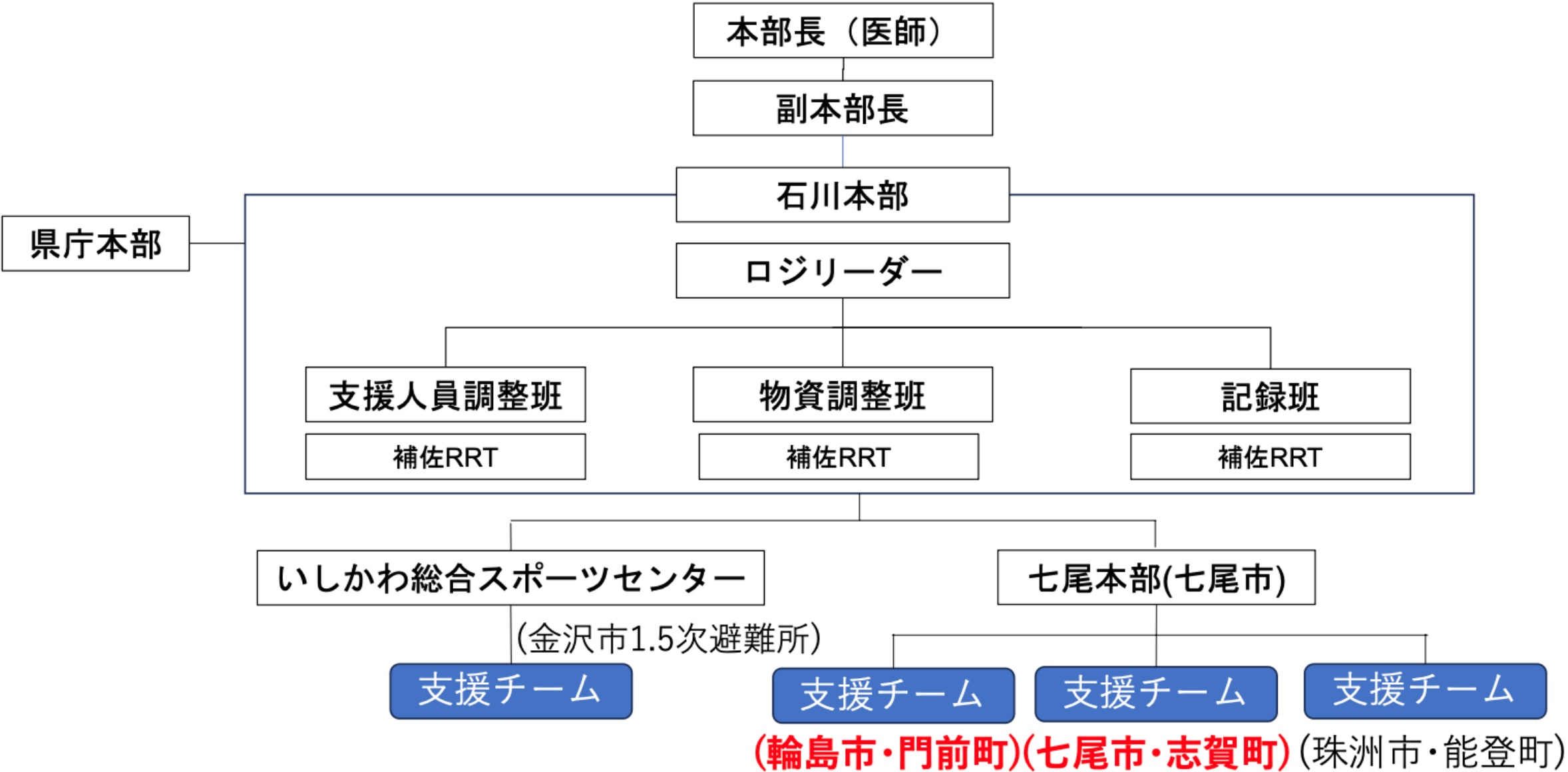
【活動実績(2024年2月14日現在)】

- ・JRAT—RRT 2名派遣
- ・ロジ対応 1名派遣
- ・JRAT 3隊 8名派遣

【JRAT派遣までの流れ】



石川JRAT令和6年支援組織図



鹿児島JRAT活動内容

R6
02
05

鹿兒島発

石川県金沢市着

R6
02
06

活動1日目

七尾本部

・志賀町役場にてミーティング

志賀町文化センター

福浦工芸工房

・志賀町役場にて保健師と情報共有

ナツちゃんMONDO宿泊

R6
02
07

活動2日目

・輪島市役所門前総合支所にてミーティング

個人宅訪問

・特別養護老人ホームあかかみ

■ 黒島公民館

・門前総合支所にて保健師と情報共有

ナツちゃんワールド宿泊

R6
02
08

活動3日目

・輪島市役所門前総合支所にてミーティング

餅田基幹集落センター

・百成(どうめき)大角間集会所

■ 矢徳集会所

・門前総合支所にて保健師と情報共有

R6
02
09

石川県金沢市発

鹿兒島着



R 6/2/5 鹿児島→石川JRAT本部

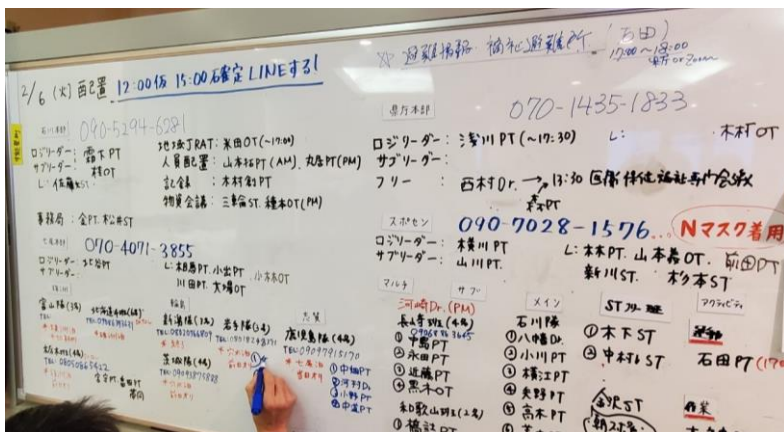
今後の活動についてミーティング



必要物品の貸し出し



活動場所の確認



JRAT活動1日目

七尾本部到着



情報収集後
志賀町役場へ



保健師とミーティング



活動開始



指定避難所でのリハトリアージ



課題

自主避難所から指定避難所への集約に向けた避難者のリハトリアージ

JRAT活動2日目

個人宅訪問(段ボールベッド設置)



特別養護老人ホームで
生活不活発病調査



自主避難所のリハトリアージ



課題

老人ホームなどの施設におけるマンパワー不足に対する対応

JRAT活動 3日目

自主避難所のリハトリアージ



屋外浴室の段差調査



活動報告会・情報共有



課題

孤立集落へのリハトリアージ・再評価

受援者のアセスメント

JRAT受援者基本票 様式 36

■評価日	西暦 年 月 日 ()	■評価者	氏名:	所属: 石川 JRAT
■避難場所	市町村: 避難所:			
	避難場所詳細:			
■受援者	フリガナ:	☐ 男 ☐ 女	歳	要支援()・要介護()・不詳
	氏名:			
■リハビリテーションエリア				
歩行・立ち上がり・食事・排泄 (完全自立)		☐ 白 介入の必要性なし		
NO				
歩行・立ち上がり・食事・排泄 (1つ以上修正自立その他自立)		☐ 緑 手助けの介入		
NO				
歩行・立ち上がり・食事・排泄 (1つ以上介助～見守り 知覚可能な介助者あり)		☐ 黄 要配慮者、介助者への介入		
NO				
入院治療が必要、常時看護介助を要す 避難所の食事・排泄・洗濯		NO ☐ 赤 看護介入 YES ☐ 黒 移送		
■基本動作状況				
項目	被災後	コメント		
寝込み	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
起き上がり	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
座位	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
転立(椅子、床)	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
立位保持	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
■ADL状況				
項目	被災後	コメント		
食事	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
排便	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
整容	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
トイレ	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
入浴	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
歩行(車椅子)	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
階段利用	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
更衣	☐ 支障あり ☐ 困難あり ☐ 支障なし			
常服薬	☐ あり ☐ なし ☐ 不明			

[illegible]

宿泊船：ナッチャンworld号

陸上自衛隊が中心となって、被災市町に派遣されている国や県内外の自治体職員が情報収集・共有をする災害対策拠点として活用



活動を通して感じたこと及び課題

●(多職種連携)DHEATと保健師のマネジメント及び連携が重要

→訪問予定の避難所に予め連絡してもらうなど事前のアポイントメントをとる

●(生活不活発予防)集団体操を指導する際に何を選択するかがまとまっていなかった

→地域ごとに様々な体操があるので他地域のJRATは理解ができない

→地域JRATが共通理解で指導できる集団体操が必要

●(福祉施設の対応)老人ホームなどの施設におけるマンパワー不足に対する対応

→行政を通して不足しているマンパワーの投入を適宜行う必要がある

→職員も被災者、疲弊させない支援が必要

●(報連相)情報収集と共有方法

→運営のデジタル化が進んでいたが、ついて聞けない人は苦勞した